



学校法人
鎌倉女子大学

ハーバード大学白熱教室

—マイケル・サンデル教授の教材研究—

「ハーバード大学白熱教室」、NHKのBSで放映され、評判になった番組ですので、読者の皆さんの中にも、ご覧になった方も多いと思います。これは、マイケル・サンデルという先生が担当する政治哲学の授業「Justice（正義）」を収録したものです。毎回1000人を超える学生たちが集まる名物授業で、あまりの評判から、ハーバードが開学以来初めてテレビ公開に踏み切ったものだそうです。

決して易しい授業という印象はもちませんでした。その内容が本に仕立てられ、『これからの「正義」の話をしよう —いまを生き延びるための哲学』というタイトルで鬼澤忍氏の訳で早川書房から出版されたものですから、私も一読してみました。

サンデル教授の授業は、さまざまな事例をあげながら、「どちらの考えが正しいのか」、「思想家たちはこういっているが、君ならどう考えるか」、「その理由は何か」、とたたみかけるように質問を発し、学生と議論を遣り取りするという手法です。ですから、無論学生にも、その議論についていくだけの忍耐力と思考力が要求されることとなります。よい授業が先生と学生双方の努力に依存するものであることは、この場合も変わりはないということでしょう。

「フロリダ州を襲ったハリケーンが通り過ぎた後、家財を失った人々の弱みにつけ込む便乗値上げを禁止する法案を支持する州司法長官の意見と、反対に便乗値上げは感情的には強い反発を招くものであっても、経済学的には至極当然なこと、価格は需要と供給の間で決定されるものであり、公正な価格などというものは存在しないのだという経済学者の意見がある。便乗値上げ禁止法案に反対する人々は、こういっている。他人がほしがる品物を提供し、社会の幸福を増大させるのが市場の役目であり、個人の自由を尊重し、取り引き対象となる品物の価格を各人に自由につけさせるのが市場の機能ではないか。これに対して、法案を支持する人々は、こういっている。苦境に陥っている時に請求される破格の値段が社会全体の幸福の実現に資することにはならないし、ハリケーンから避難する人々が仕方なく支払うガソリン代や宿泊費はとて自由な取り引きとはいえないではないか。さて、どちらが正しいのだろう」。教授は、そう問題を提起し、学生たちにどちらが正しいのか、その訳は何か、と考えさせた上、更にこう問いかけるのです。「いや、この問題は、どうも幸福とか自由とかに関わる問題だけではなさそうだ、人々がどう振る舞うべきかという、よい社会を作るための土台になくてはならない個人の美德にも関わる問題ではないのか。しかし、何が美德で、何が悪徳かを判断するのは、特に多民族国家であるアメリカでは慎重でなければならず、殊に法律や政府が介入すべき事柄ではないはずである、

君たちはどう思うか」。そして、教授は、こうとりまとめます。「この問題は、幸福の実現とは何か（功利主義）、自由の尊重とは何か（自由主義）、美德の促進とは何か（道徳主義）、を問うだけでなく、これらをどう調停するかという正義の問題に帰着することになる。とすれば、古代ギリシアのアリストテレスから現代アメリカのジョン・ロールズまでの、西洋の主だった政治哲学を解き明かすことにつながっていくのだ」。いや、むしろサンデル教授の目的は、さまざまな政治哲学を説明したいがために、このような事例をもち出し、具体的にイメージさせながら、知識を授けると同時に、併せて論証の方法を訓練しようとするところにあるようなのです。

教授は、タリバン掃討作戦中出くわした民間人とおぼしき山羊飼いを殺さなかったばかりに、敵に密告され、結果として3人の戦友と救出のヘリコプター部隊16人を失うことになった米海軍特殊部隊の兵士の判断の是非、商業的な代理出産を合法化したインドの町アナンドにいる、先進諸国の不妊夫婦のために身ごもる女性たちの存在、即ち妊娠のグローバルな外部委託アウトソーシングのもたらす矛盾、こういった事例を引きながら、法律は如何にあるべきか、社会は如何に組み立てられるべきか、道徳は如何に機能すべきか、そして正義とは何か、と問い詰めていくのです。

無論、授業の進め方は、各自のスタイルがあっというものでしょうし、氏の方法がベストとも思いません。授業とは、本来そうしたものです。しかし、私が感心するのは、一つの授業を担当するために、常にアンテナを張りめぐらし、時々刻々世界で起こる事象を収集し、それと授業の主題である政治哲学を切り結び、自ら考えさせながら、学生たちを導いていく姿勢です。何と云っても、教材研究に費やされているであろう圧倒的な時間の質量に敬服する他ありません。そうした姿勢は、幼稚部から大学院までの全ての授業担当者に通ずることで、私たち教員が少しでも見習うことの出来るものだと思います。

※「 」は、正確な引用文ではなく、筆者がサンデル氏の発言の趣旨をとりまとめたものです。

[>前のページへ戻る](#)